

令和 5 年度 県立岩瀬高等学校自己評価表

目指す学校像	○ 社会でより良く生きていくために 必要な資質・能力を身に付ける ことができる学校 ○ 将来のあるべき姿をイメージしながら、 自己のキャリアについてしっかり考え、最良の選択 ができる学校 ○ 「自分の中の力を伸ばせ」という校訓のもと、 明るく伸び伸びと個性を輝かせる ことができる学校 ○ 教師と生徒がともに向き合いながら 、協力して校風や伝統を継承し、さらなる発展を目指し、歩み続ける学校			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	○社会でよりよく生きていくために、自立した“市民”を育成する。 (1)授業や特別活動等あらゆる場面で探究的に物事を考える場面を用意し、自らの考えや意見を持つことができるようにする。 (2)将来の進路や社会での役割を意識して、自ら課題の解決に向かって行動する力を育成する。 (3)他者と協働する学びをとおして、異なる考えや価値を認め、尊重する力を育成する。 (4)社会人として身に付けなければならない基礎基本を徹底して習得し、自らを律し、健康に暮らすことのできる生活習慣や体力を身に付け、自律的に社会の発展に寄与できる人材を育成する。 (5)生涯にわたって学び続ける力を育成する。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	○探究的な学びを軸に据えた教育課程を編成し、社会でよりよく生きるための力を身に付ける機会を提供する。 (1)総合的な探究の時間をとおして、主体的に学びに向かう態度や物事の考え方を課題解決的、経験的に学ぶ取り組みをする。 (2)一人一人の進路希望を実現するために必要な力を獲得できる教育を実践する。 (3)生徒の自主的・主体的な特別活動、ボランティア活動を奨励する。 (4)総合的な人間力育成のために、部活動を奨励する。 (5)ICT 機器を有効に活用し、主体的・対話的で深い学びを実現し、個別最適な学びの実現を目指す。		
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	○将来の自分のために、3年間又は5年間の学びに真剣に向き合う覚悟を持てる生徒を募集する。 (1)本校を第一志望とし、本校のスクールポリシーに共感できる生徒 (2)誠実であり、他人への思いやりを大切にでき、困難を乗り越えようと努力できる生徒 (3)学校生活を仲間と一緒に協働して活動しようとする生徒 (4)学校で実施される様々な活動に積極的・主体的に参加しようとする生徒 (5)自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重しようとする生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
学校の授業が大切であると考える生徒は多数いるが、家庭学習が習慣化されていない等、主体的な学びにつながっていない。生徒が自身の学習活動を振り返って粘り強く継続する授業など、優れた授業実践も行われているが、主体的・対話的な学習へ向けての授業研究が求められる。学習指導方法を工夫しながら授業改善		(1)豊かな人間性の育成	①「総合的な探究の時間」の授業や学校行事等の教育活動全体を通して、規範意識や豊かな人間性を養うとともに、他者や社会・自分とは異なる世界とどう関わるかを学ばせ、 人間関係構築力やコミュニケーション力を培う。 ②「朝の読書」を継続して実施し、静かな時間を共有することにより 豊かな情操と人間性を育む。 ③実習や地域との連携した教育活動を通して、 医療人(看護師)としての高い倫理観と使命感を育てる。	
		(2)学習意欲の向上	④授業改善とともに、学習評価の在り方を検討しその充実に努めることで、「 探究的に学ぶ 」姿勢を育む。 ⑤各教科の年間指導計画に基づき、効果的な学習評価や実社会との関連を意図した教育を展開することによ	

別紙様式 2 (高)

を図るとともに、学習評価の方法を検討し充実させることが課題である。そのために、「学ぶこと」への興味・関心・意欲を高め基礎学力の定着を図りながらICTを活用し、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するために、教員間で、相互に授業参観・授業研究し、個々の優れた授業実践を共有する。また、学習評価等の研修の機会を持つ。基礎学力が足りない生徒への対応として、スタディサブリの導入により基礎学力を向上させる取り組みを行う。 目標設定が苦手な生徒がおり、授業、インターンシップ、学校行事等で学んだことや経験がキャリア形成に生かせないのが現状であり、自分の進路を選べない、決められない生徒がいるが、学校を通した就職希望者の決定状況が100%であった。チャレンジプロジェクトを総合探究の時間と結び付け、進路キャリア教育を一つのテーマとして主体的な進路実現を目指す。 全体的に落ち着いているが、基本的生活習慣の身に付いていない生徒、公共マナー等に対する意識の不十分な生徒が一部に見られる。情報モラルが低い生徒がおり、的確な判断ができないため、生徒間のトラブルに発展するケースが見られた。18歳への成年年齢引き下げに伴い、社会人として必要とされる基本的生活習慣、資質能力等の育成定着を図ることが課題である。また、シティズンシップ教育、金融教育、性教育、情報モラル・情報リテラシーの育成を進めていく。 多くの生徒が看護職に向けて熱心に取り組んでおり、目標に向かって真摯に努力する姿勢が見られる。看護師国家試験で昨年度100%の合格が達成できた。看護師としての職業観・豊かな人間性を醸成し、看護職への意欲を高めることが課題である。高い専門性と人間性を備えた看護職者を育てるという視点で、社会人としてのマ		り、基礎学力を定着させ、学習への動機付けを高め、主体的な学びの姿勢を育む。 ⑥少人数授業・課外指導等を実施し、個に応じた発展的な学びを推進して学習意欲を高め、大学入試や国家試験に対応できる学力の向上を目指す。	
	(3) 基本的生活習慣の確立と生徒指導の充実	⑦全職員の共通理解・実践のもと、端正な身なり・明るい挨拶・時間厳守の習慣を身に付けさせる。特に、社会性育成の観点から登下校指導等において「挨拶ができる生徒」の育成を目指す。 ⑧成年年齢の18歳への引下げに伴い、社会人としての基本的な資質能力の育成を目指す。	
	(4) キャリア教育の推進	⑨「進路の手引き」等を活用し、種々の教育活動や行事等（チャレンジプロジェクト）と関連づけながら一人一人のキャリアプランニング能力を高める。 ⑩実社会の様相や課題解決方法などを踏まえた適切な情報を提供し、生徒のよりよい進路選択に資する。 ⑪進路指導部と学年との連携を強化し、課外・小論文・模擬面接指導等を通し個に応じた指導の充実を図り、進路希望の実現を目指す。	
	(5) 魅力ある学校づくりと部活動・特別活動の活性化	⑫生徒会活動を活性化するために、生徒の主体的な取り組みによる学校行事やホームルーム活動等を展開する。 ⑬HRや学校行事等においてキャリア・パスポートを活用し、自分の高校生活を見通したり振り返ったりすることで自己理解を深めさせ、将来について考え主体的に学び続ける力を育む。 ⑭部活動への加入率を上げ、熱心に部活動に励む姿を積極的に評価することにより、自尊感情・活動意欲を高め、部活動全体の活性化を図る。	
	(6) 看護教育の充実・5年一貫看護師養成教育の充実	⑮衛生看護科・専攻科の発達段階を踏まえ、5年一貫教育の利点を活かした教育活動を展開し、看護に関する知識・技術の習得を図り、将来の医療従事者として活躍できる人材育成を目指す。 ⑯教科指導・実習指導・載帽式を始めとする各種行事を通して、看護職への自覚を高めるとともに、看護師としての職業観・倫理観の育成と人間的成長を目指した全人的教育に努める。 ⑰病院・施設等の関連機関との連携を深め、臨地実習等が実践的で、より発展的な学びを得る場となるように努める。併せて、将来、地域医療の担い手となる人材の育成に資するキャリア教育を展開する。	
	(7) 開かれた学校づくりと外部への情報発信の推進	⑱地域社会と連携した教育活動を積極的に展開することにより、保護者・地域社会、近隣の小中学校、看護教育機関等との信頼関係を構築し、開かれた学校づくりを推進する。 ⑲本校の特色ある教育活動を積極的に報道機関に情報提供するとともに、ホームページ等で地域社会に発信し、本校の認知度を一層高めていく。	
	(8) 業務の効率化と働き方改革の推進	⑳常に現行の業務内容について改善点を見つけ、業務改善を推進し、生徒と向き合う時間の確保を図る。 ㉑勤怠管理システム、テレワークシステム、ワークフローシステムの定着化をはかり、先生方の業務負担軽減を目指す。 ㉒時間外勤務時間45時間以内を100%達成する。	
	(9) 授業改善	㉓生徒が意欲的に授業に参加する授業展開を行う。	

別紙様式 2 (高)

ナーを身に付けさせるなどバランスのとれた指導を図る。		②④デジタル・シティズンシップ教育の一端として、ICT 教育の充実をはかる。毎時間、ICT 機器を利用した授業展開を心掛け、生徒が当たり前と思える形づくりに努め、生徒のタブレット利用の促進をはかる。 ②⑤各授業において「生徒による授業評価」を年間数回実施し、KPI（数値目標）として、授業満足度 80% 以上を目指す。また、授業満足度の平均値（教科・学年・学校全体）を示す。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
国 語	1 基本的な国語力の向上を図る。	ア 漢字力テスト、新聞コラム学習などの取り組みを通して漢字や語句学習への意欲を高めさせる。⑤			
		イ 話すこと・聞くことの指導を通して、柔軟な思考力や適切な判断力を身に付けさせる。①⑤			
	2 文意を的確に把握する能力を育成する。	ア I C T を活用し、様々な優れた文章に触れさせ、的確に読みとる力を身に付けさせる。①②④⑤			
		イ 文の組み立て・語句の意味・文法などを理解させ、語彙力を豊かにさせる。①②④⑤			
	3 思考力を伸ばし、豊かな心を培う。	ア 様々な文章を読んで、ものの見方・感じ方・考え方を広め深化させる。①②④⑤			
		イ 朝の読書等を活用し、生涯にわたって読書に親しむ習慣をつけさせる。①②			
		ウ 新聞コラムを活用し、時事問題に対する関心や自らの考えを深めさせる。①⑤⑩			
	4 主体的に表現しようとする力を育成し、伝え合う力を養う。	ア 書くことを通して、思考を整理する力や、自己表現能力を養う。④⑤			
		イ 自分の意思をより正確に伝える経験を積みながら、必要な表現力の基礎を身に付けさせる。①②			
	5 進路目標の実現を図る。	ア 受験に対応した小論文の指導を一人ひとりと向き合いながら行い、自らの進路について、考えを深めさせ、進路の実現を図らせる。⑥⑩⑳			
地理・歴史	1 現代社会でよりよく生きるために、自ら考える姿勢を養うとともに、解決する力を育成する。	ア 時事問題や国際的問題を取り上げ、現代社会の課題やその解決策をICTを活用し考えさせる。⑤⑧			
		イ 消費者問題・ネット犯罪など、身の回りで起こる具体的な問題についてタブレット等を利用し考えさせ、発表させる。④⑧			
		ウ プリント学習などを通して、新聞・ニュースなどでつかわれる政治・経済に関する用語・略語などを理解できるようにするとともに、主権者教育として、主権者としての責務を考えさせる。また、社会を構成する一人としての自覚を促し、より良い生き方を模索することができるようにする。④⑤⑧			
	2 国際社会に生きる人間として、各国の歴史的事情を理解させるとともに、歴史的思考力を培う。	ア 歴史の授業と地理の授業を相互にリンクし、図版や視聴覚教材等を用いてなぜそこで歴史的事件が起こったのかを考察させる。④			
		イ 義務教育での歴史学習の復習をするとともに、それを発展させて歴史的事件の背景とその事件の意義を考えさせる授業を展開する。④⑤			

別紙様式 2 (高)

		ウ 進学者には受験対応の課外を充実させ、就職者には社会人の教養を身に付けさせる。⑥⑩			
数 学	1 授業を大切にし、授業に主体的に取り組ませ、個に応じた指導ができるようにする。	ア 生徒同士の協働による対話的な授業を充実させ、主体的な学び、そして深い学びへと繋げる。④			
		イ ICT の利用を含め、分かる授業を実践することによって、生徒を授業に集中して取り組ませる。④			
		ウ 机間指導を充実させ、苦手な生徒に対し、演習の時間などで個別に指導する。④			
	2 基礎的な計算力を身に付けさせる。	ア 週末課題を実施するとともに、授業中の問題演習を通して、計算力を身に付けさせる。④			
	3 家庭学習の習慣を身に付けさせ、数学に対する深い学びに繋げる。	ア 週末課題の実施により、毎週末の家庭学習習慣を定着させ、数学に継続的に触れることにより、数学に対する深い学びに繋げる。⑤			
	4 授業内容について	ア 学んだことを定期的に振り返る習慣を促し、基礎学力の定着を図るとともに、適切に評価する。④			
		イ 生徒の興味・関心を引き起こして自ら学ぶ意欲を育む。②⑩			
理 科	1 基礎学力の向上を図る。	ア ICT の利活用を通して、単元ごとの到達度チェックや課題等の提出機会を設け、学習事項の定着を確認する。またその効率化を図る。⑤②④			
		イ 成績不振者に対しては学期ごとに補講(学びなおし)を行うなど、学習フォロー体制を充実させる。⑤⑥			
	2 分かる喜びを実感させる。	ア 生徒の実態に合った授業を展開し、既習事項との関連付けや系統性を持たせることで理解の定着を図る。④⑤②③			
		イ 実験や観察を取り入れ、生徒の興味・関心を引き付ける授業を展開する。また、教材・教具の視点の共有化を図る。④⑤②③④			
		ウ ICT を利活用し、生徒と関わる機会と意見交換の場面を充実させる。④②④			
	3 豊かな科学的素養を涵養する。	ア 科学的に探究する過程を通して学習を進め、科学的な思考力、表現力、判断力を養う。⑤			
		イ 身近な生活や自然環境と科学との関わりを重視した指導を行う。④⑤②③			
保健・体育	1 基本的習慣の徹底を図る。	ア 服装・集合時間などの基本的習慣が身に付くよう徹底させる。④⑤			
	2 基礎体力の向上を図る。	ア 体力テストの結果をもとに、個々の健康状態等にも配慮し、一人一人に合った目標を設定させ日々の生活で実践させる。⑤⑩②⑩			
	3 生徒の自主性を引き出す。	ア 生徒が自主的に実施できるような教材を提供し、積極的な活動に繋げていく。⑩⑩②			
		イ 各自の能力に応じて具体的な目標設定をし、達成に向けて努力させる。⑩④④			
		ウ ICT を活用し課題解決に向けた思考力・判断力・表現力などを育成し、主体的に取り組む姿勢を養う。④			
	4 保健学習を通し、健康的な生活習慣を身に付けさせる。	ア 知識の獲得だけでなく、生涯にわたり健康的な生活習慣を身に付けるきっかけとなるような学習内容を精選し、教材選定についても工夫していく。⑩④③			

別紙様式 2 (高)

芸 術	1 生徒が生涯にわたって芸術を愛好することができるよう、指導を工夫する。	ア 知識や技術偏重にならないよう、バランスの取れた指導を行う。④⑤			
	2 生徒の個性を生かす指導方法を工夫する。	ア 生徒が自ら課題を見つけ、主体的、創造的に活動できる場を設定する。④			
		イ 各領域の幅広い活動を可能にする多様な題材の設定と教材を工夫する。④⑤			
	3 指導に生かす評価を実施する。	ア 生徒自身の自己評価、相互評価を取り入れた評価を行う。④⑤			
英 語	1 高校英語の基本的な知識の定着をねらい、指導方法を工夫する。	ア 1、2年生の少人数クラスでは、暗唱・リーディングプラクティス等を実施し、きめ細かで丁寧な指導を行い、生徒の実態や個に応じた授業を展開する。⑥			
		イ 学んだことを定期的に振り返る活動を十分に取り入れ、基礎学力の定着を図る。⑤			
		ウ 実生活で使える単語や表現を学ぶことで、学習への動機付けを高め、主体的な学びの姿勢を育む。⑤			
	2 実践的なコミュニケーション能力を育成する。	ア A L Tを活用し、実践的なコミュニケーションの必要性、楽しみを実感させる。①④			
		イ クラसरૂームイングリッシュを教員、生徒ともに使い、英語を使用する機会を増やす。④⑤			
		ウ リスニング、ペアワーク、グループワーク、インタビュー等の活動を行い、生徒が主体的・協働的に英語を使用する場面を増やす。④⑤			
	3 学習意欲を増進させるように、関心・意欲を高める授業を実践する。	ア 地図・写真・ビデオ、英字新聞(Student Times)等を利用し、各単元に出てくる地域やテーマの背景・状況について理解を深めさせる。①④			
		イ デジタル教材を利用した内容理解や、タブレットを利用した生徒同士のやり取り、英語でのプレゼンテーションなど、I C Tを活用しながら英語の4技能を向上させる。①④			
	4 進路目標の達成を図る。	ア 英検受験を奨励し、個別に対策指導を行う。また、1年生全員と2、3年生の希望者に全商英検を受験させ、合格者数を増やす。⑪			
		イ 課外授業や補習授業を充実させ、生徒からの質問を促し、自ら学習する態度を育てる。⑥⑪			
		ウ 外部模試の受験を奨励する。⑥⑪			
家 庭	1 基本的な知識と技術の習得を図り、生活課題を解決できる能力を高める	ア 生徒が意欲的に学習に取り組めるような資料を活用した授業展開を行い、自らも課題を見出して解決していく活動を中心に学習を進める。⑤			
		イ 学習したことを活用して、生活課題の解決策を考察して、生活の改善につなげる態度を身に付ける。④			
	2 実習をととして、課題に取り組む意欲と技術を身に付ける	ア 生徒の能力に合った個別指導をT Tで行い、技術の向上と達成感を体感させる。⑤			
		イ 生徒に主体的な学習を促し、机間指導を行いながら個人の指導にあたる。⑫			
情 報	1 コンピュータの活用を通して、情報を適切に処理するための基礎的な知識と技能を習得させる。	ア 個に応じた学習や課外授業・補習などを通して、コンピュータを活用する能力を身に付けさせる。⑤			
		イ アプリケーションソフトを活用する能力や技能を学習し、情報化社会で生きる力を身に付けさせる。動画などの教材を活用し効率化を図る。アルゴリズムを活用し問題解決できる能力を身に付けさせる。⑤			

別紙様式 2 (高)

	2 情報モラルについて考えさせ、情報の適切な扱い方を学ばせる。	ア 情報化社会でよりよく生きていくために必要な、情報の扱い方や情報モラルを動画や実例などを活用し、生徒との向きあう時間確保する。④②⑩			
商 業	1 情報処理の基礎的な知識・技術の習得、及びビジネスの諸活動に活用する能力を育成する。	ア 商業に関するスペシャリストとしてコンピュータを活用する授業を展開し、ビジネス文書実務検定などを通し知識技術の向上等自ら学ぶ態度を育成する。④②⑩			
	2 ビジネス諸活動における情報処理、プレゼンテーションに関する知識・技術の習得を図る。	ア ビジネスにおける実践的な表計算やプレゼンテーションをアクティブ・ラーニングによって学習し、コミュニケーション能力を高める。グループ学習を多用し生徒と向き合う時間を確保する。④②⑩			
	3 経営活動における会計処理に関する知識・技術の習得を図る。	ア 企業経営に欠かせない簿記会計に関する記帳方法や会計処理の能力等を、個に応じた I C T 教育を通して高め、教材等の効率化を図る。⑤②⑩			
衛生看護科	1 看護師という職を通しての自己実現を目指すとともに、看護師としての職業観と豊かな人間性を育む。	ア 低学年から看護師国家試験を意識した学習や単元テスト・ワークシートの活用等をとおして、主体的な学習への取組みを促し、知識の定着および学習習慣の確立を図る。⑤⑥⑬			
		イ 進路ガイダンスや進路の手引きの活用、面談などを通して一人一人の生徒と向き合い、希望にあった就職・進学活動を支援する。⑨⑩⑪			
		ウ 教科指導・生活指導および看護科集会・戴帽式等の行事を通して、看護科生徒としての自覚と医療に携わる者としての資質を高める。③⑬			
		エ 生命・医療に関する講話、JICA や県西生涯学習フェスティバル等の体験学習を通し職業観の涵養と豊かな人間性の育成に努める。③⑬			
		オ 看護実践において情報を適切に活用できるよう、多様な場面で情報を判断する能力および情報モラルを身に付けさせる。⑬			
	2 発展的な学びができるよう校内実習および臨地実習の円滑な運用を行う。	ア 生徒や臨地の実態を踏まえ、実習内容及び方法を精査し、生徒が安全にかつ効果的に実習が行えるよう実習の環境を整える。⑪			
		イ シミュレーション教育や臨地実習を通して、知識・技術を活用した看護の実践を経験させるとともに、臨床判断能力の育成に努める。⑤⑬⑭			
		ウ 生徒個々の学習課題に沿った支援ができるように、生徒の個別性や習熟度、施設の特性等を踏まえて、実習指導者と意思疎通を図り、連携した指導を行う。③⑬⑪			
	3 看護を学ぶ楽しさ、実践する喜びを感じる教育活動を行う。	ア 5年間を見通した段階的かつ継続的な学習を行うとともに、生徒の主体的・対話的で深い学びとなる授業の充実・改善に努める。④⑤⑥⑬⑭			
		イ オンライン授業の円滑な運用や ICT を活用した授業の充実に努める。④⑤⑭⑮			
		ウ 生徒が小さな達成体験を積むことによって自己有用感・自己効力感を高める教育活動に努める。⑪			
		エ 異学年交流やグループ活動の機会を様々な場面で設け、主体的な学習や学校活動を推進する。⑬			

別紙様式 2 (高)

教務部	1 教育課程の適正化に努める。	ア 教育課程の定期的な把握を行い、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得しやすい教育課程環境の維持に努める。⑤			
		イ 生徒の能力を測りながら、希望進路実現にかなう柔軟な教育課程を編成する。⑥			
	2 指導力の向上に努め、授業の充実を図る。	ア 各教科で年間指導計画を作成し、効果的な学習評価や実社会との関連を意図した教育を展開することにより、生徒の主体的に学習に取り組む態度を育成する。⑤			
		イ 教員相互の研修を充実させ、指導法の工夫、研究を図り、アクティブ・ラーニングの視点から不断の授業の充実改善に努める。④⑤			
	3 授業時間の確保を図る。	ア 学校行事の精選や出張・年休時の授業交換に努め、95%以上の授業を確保する。⑤			
		イ チャイムスタート、チャイム終了を徹底し、50分の授業の充実を図る。⑤			
		ウ 各校務部・各学年・各教科などとの連絡を密にし、各行事の時間や内容などの情報収集に努め、その円滑な運営や改善を図る。⑪⑫			
	4 開かれた学校づくりを目指す。	ア 各種学校案内業種からの要望に可能な限り対応し、本校の活動実績、魅力の発信に努める。また、スクールガイドの充実を図り、積極的に情報を提供する。⑳			
		イ 保護者、中学校への広報、学校説明会等で、本校のよさを十分に発信できるように努める。⑲			
	5 校内ネットワークの整備を行う。	ア 茨城県立学校統合型校務支援システムを適正に運用し、正確な成績処理及び諸帳簿の作成に努める。④			
		イ 他の分掌と連携しながら、分かりやすく魅力あるホームページを編集し、本校教育活動の積極的な情報発信に資する。⑲⑳			
		ウ 教育情報ネットワークの円滑な利用をサポートする。㉑			
		エ 校内ネットワーク、サーバの安定的な運用に努め、情報を共有することにより校務の負担軽減及び効率化を図る。㉑			
		オ 情報セキュリティ対策や、ソフトウェア製品の脆弱性対策に努める。㉑			
	6 図書館の環境整備を行う。	ア 調べ学習の円滑化と読書の推進を図るために、廃棄及び更新を適切に行い、利用しやすい環境を作る。②⑩			
		イ 季節や学校行事等に合わせたテーマ別コーナーを設置し、時流に応じた図書の紹介や情報の発信をする。①			
		ウ 教員のための研修の場としての環境を整える。①②			
	7 豊かな人間性の育成を図る。	ア 情勢に根ざした文化・教養の発信を図る。⑩⑪			
		イ さまざまな教養講座を開催し、豊かな人間性の育成を図る。①⑩			
	8 図書委員会活動の活性化を図る。	ア 図書館行事の企画運営や図書館便りの発行によって、図書館の情報発信の担い手としての人材育成を図る。①⑫⑬			

別紙様式 2 (高)

進路指導部	1 生徒にとって有益な進路情報を提供し、適切な進路選択ができるよう促す。	ア 「進路の手引き」を活用し、自己理解・進路理解に向けた指導を行う。⑨			
		イ 進路ガイダンスや進路指導部通信の発行などを通して、生徒に有益な進路情報を提供する。⑨⑩			
		ウ インターンシップを通して、就業意識や進路目標の設定を促す。①⑨⑩			
		エ 多様な入試制度についての理解を深め、個々の生徒に適切な情報を提供する。⑩⑪			
		オ 公務員講座や予備校学習会など進路実現を促す経験の場を提供する。⑨⑩⑪			
	2 基礎学力の向上を図ると共に、希望進路に対応できる学力や思考力を身に付けさせる。	ア 各種課外を計画的に行い、学力の養成を図る。⑥⑪			
		イ 学力向上プログラムの利用教材であるスタディサブリを課題などに活用し、また到達度テストと連動した朝学習を行い、基礎学力の定着を図る。⑤⑪			
		ウ 模擬面接指導を通して、自己理解とコミュニケーション能力の養成を図る。①⑩⑪			
	3 各学年及び家庭との連携を深め、主体的な進路実現を促す指導を目指す。	ア 形骸化した行事の廃止も含めて見直しをする。また各学年との連携を深めながら、進路指導についての共通理解を図る。⑪⑫			
		イ 必要に応じて、保護者との進路相談の機会を設け、進路選択の支援をする。⑩			
生徒支援部 (前年の生徒指導と渉外)	1 基本的生活習慣の確立を図る。	ア ネクタイ・パーティなどの身だしなみを整え、本校指定の制服を正しく身に付けさせ、規範意識を確立する。①⑦⑧			
		イ 適切な言葉遣い、挨拶等をとおして高校生としてふさわしい生活習慣を身に付けさせる。①⑦⑧			
	2 高校生としての自覚を持ち、責任ある行動がとれるようにする。	ア 生徒指導に関する教員間の認識を統一する一つの方策として、朝と放課後の登下校指導を継続して実施する。⑦			
		イ 特別指導の減少を目指し、学年・担任を中心に教職員全員で生徒情報の共有化を図り、生徒の実態に応じたきめ細かな指導を行う。⑦			
		ウ 登下校の状況やスマートフォンの使用状況を定期的に点検・確認し、生徒たちが安全かつ安心して生活できるよう支援する。⑦⑧⑬			
	3 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め、実態把握およびいじめに対する措置を適切に行う。	ア 生徒の自己有用感を高め、生徒から相談しやすい関係を構築するとともに、定期的にアンケート調査を行い、生徒の実態を把握し、未然防止・早期発見に努める。①⑦⑧⑬			
		イ 保護者から相談しやすい関係を構築するとともに、いじめの早期発見に努める。⑬			
		ウ いじめ発生の際には保護者との連携を図り、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行い、早期解消に努める。⑬			
		エ 保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。⑬			
		オ 情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適宜に行う。⑬			
	4 P T A 活動の活発化に努める。	ア 育成・研修・広報の委員会活動をさらに充実させ、PTA 本部役員が中心となって多数の保護者が各種行事に積極的に参加できるよう働きかける⑬			
	5 P T A 役員・保護者との緊密な連携を図る。	ア 評議員会等において、保護者からの率直な意見に耳を傾けながら、話し合いの機会を充実させ、本校の教育に生かせるように努める。⑬			
保健厚生部	1 健康に興味・関心を持ち、自	ア 健康診断・身体測定などの実施とともに、事後措置の徹底を図る。①			

別紙様式 2 (高)

	己の健康状態を正しく把握し、健康管理に努めるよう指導する。	イ 生徒の心身の健康保持・増進を図るために、継続して教育相談を実施する。①⑱			
		ウ 手指の手洗い、机などの手の触れる箇所の消毒、教室の換気など、感染症拡大防止の対応を行う。①			
		エ カウンセリング体制の整備と、カウンセリングルームの積極的な活用を図る。①			
	2 校内の清掃を徹底し、環境美化に努める。	ア 清掃区域割り振り計画の策定と清掃用具の調達を行う。①			
		イ 学期末大掃除を実施する。①			
	3 防災意識の高揚及び安全迅速な避難行動の確立。	ア 積極的・自発的な避難訓練を実施する。①⑱ イ 震災の教訓を生かし、停電時の緊急連絡・緊急避難を想定して行う。①⑱			
学 校 行 事 改 革 推 進 部	1 学校行事や特別活動を通して、学校全体が活性化するように努める。	ア 各種学校行事の準備・運営ともに生徒会・各種委員会が中心となり生徒全員参加の活動をする。⑫⑬			
		イ 部活動の充実を図り、少人数でも効果的な活動ができるような工夫を試みる。⑭			
		ウ より充実した内容のHR年間指導計画を作成し、キャリア・パスポートを効果的に活用し生徒の主体的な活動へ繋げる。⑫⑬			
	2 各学年、他の校務分掌と連携を図り、種々の教育活動の充実を努める。	ア 総合的な探究の時間とチャレンジプロジェクト等の活動を関連付け、生徒の主体的な進路実現を促す。①⑨			
		イ デジタル・シティズンシップ教育の一端として、ICT教育の充実を図り、相互授業参観や研修等を通して授業改善に努める。④⑳			
		ウ 進路指導部と連携し、インターンシップの実施やキャリア・パスポートの活用を通して生徒のより良い進路選択につなげる。⑨⑩⑬			
事 務 部	1 学校の窓口としての的確な接遇を行う。	ア 電話や窓口等においては、誠意ある態度・応対によって県民サービスの向上を図るとともに、生徒や保護者との関わりを通じて相互の信頼関係を高めるよう取り組む。⑱			
	2 予算を計画的・効率的に執行する。	ア 限られた財源の中、将来を見通した教育環境整備を図るため、計画的・効率的に予算を執行する。㉔			
	3 安心安全な学校生活のための施設管理を行う。	ア 学校施設の日々の点検及び修繕により、生徒が安心して安全に教育活動を行える教育環境の設備・保全に取り組む。㉔			
第 1 学 年	1 基本的生活習慣を確立する。	ア できる限り遅刻・欠席・早退をしないよう、日頃から体調管理には留意させる。⑦			
		イ 学年集会やHR等を通して、ルールやマナーの遵守を徹底させる。また、きちんとした身だしなみを意識させ、元気なあいさつを心掛けさせる。⑦			
		ウ 高校生という自覚を持たせ、「当たり前前」のことを「当たり前」にできるような生徒になれるよう自分の行動に責任を持つことを意識させる。⑦			
	2 基礎学力の向上を図る。	ア 到達度テスト等のデータを活用し、基礎学力の定着・向上を図る。⑤			
		イ 基礎学力向上を図る上での授業の重要性を理解させ、課題や提出物等にはきちんと取り組ませる。⑤			
		ウ I C T 機器を活用し、自ら探究的な学びを深められるような機会を多く与えていく。㉔			

別紙様式 2 (高)

	3 進路に対する意識を持たせる。	ア 様々な進路行事等を活用しながら、自分の進路に対する意識付けを図る。⑨			
第 2 学年	1 基本的な生活習慣の徹底を図る。	ア 皆勤を目指し、欠席・遅刻の減少に努め、欠課時数の増加を抑える。⑦			
		イ 学年集会やHR等を通して、端正な身なり・明るい挨拶・時間厳守の習慣を身に付けさせる。⑦⑧			
		ウ 規範意識の高揚を促すため。生徒と向き合う時間をつくるよう取り組む。⑦			
	2 進路意識の高揚を図る。	ア インターンシップや進路ガイダンスを通して、職業意識を身に付けさせるとともに、進路実現に向けて学習意欲を喚起させる。⑧⑨⑩			
		イ 各種課外や模試を計画的に実施し、進路希望に対応した学力養成を目指す。⑥			
		ウ 探究的な授業への取り組み方を重視し、基礎学力の向上と家庭学習の習慣化を図る。④⑤			
		エ ICTを活用し、業務内容の効率化を図り生徒と向き合う時間を確保する。⑳			
	3 HR活動を充実させる。	ア HR活動や面談等を通して生徒理解に努め、問題行動の未然防止を図る。⑫⑬			
		イ よりよい人間関係の構築に向け集会やHR活動でコミュニケーション力を養う。①			
	4 修学旅行を充実させる。	ア 修学旅行の事前・事後学習及び各教科での主体的な学習を通して、歴史・文化と平和への理解を深める。⑬			
第 3 学年	1 基本的な生活習慣の徹底を図る。	ア 最高学年としての自覚を持たせ、規範意識の高揚と豊かな人間性を養う。⑦			
		イ 社会人としての基本的な資質能力を養う。⑧			
		ウ 遅刻・欠席者の減少に努め、皆勤を目指す指導をする。⑦			
		エ 正しい言葉遣いや態度、挨拶・服装・頭髮等の指導で、はじめある生活を定着させる。②⑦			
		オ ICTを活用し業務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保し生徒理解に努める。⑳			
	2 進路実現のための意識及び学力の向上を図る。	ア 課外や模試を計画的に実施し、進路実現のための学力を養成する。⑥⑪			
		イ 就職問題集等の活用を通して、学習習慣を身に付けさせる。⑤⑪			
		ウ HRやガイダンスを通して、ICTを活用し一人一人のキャリアプランニング能力を高め、社会に出るための下地をつくる。⑨			
	3 保護者・地域社会との連携を図る。	ア 三者面談や進路行事を通して、保護者との連携を図り進路指導について信頼関係を構築する。また、家庭との連絡を密にし、卒業と進路実現に向けて意思疎通を図る。⑩⑬			
		イ 配慮を要する生徒・家庭について、教員間での情報を共有し支援に努めるとともに、外部機関・各校務分掌との連携を図り、生徒や保護者と向き合う時間を確保する。⑬⑳			

※ 評価規準：A : 十分できた。良い結果が出ている。うまくいっている。

B : よい。まずまずの結果である。

C : やや不十分である。努力を要す。

D : 不十分である。かなり努力が必要である。